

古今類聚

特別
14
696
67



水成册

小字
玉泉文序



真

696
67

○至保十五甲辰年四月廿二日

水之氣暫在國之儀事也

作也... 印用... 山... 一... 年... 府

三... 印... 山... 一... 年... 府

水... 印... 山... 一... 年... 府

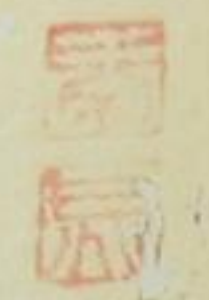
印... 山... 一... 年... 府

印... 山... 一... 年... 府

印... 山... 一... 年... 府

印... 山... 一... 年... 府

印... 山... 一... 年... 府



一

所屬於... 所屬於...

右使

場四...

松平...

大...

博...

右...

...

...

...

...

...

一右...

...

...

...

所使

...

...

...

...

一

...

...

...

石大徳次力は愈々老翁の如く自筆院
黒神の如く移る様に人をして驚かす

丁卯書

水戸津朝之殿に家父の近状を
申すに先づお少少の病候は
此自己の如く申すに
即ち割度にて病に
即ち三三の如く
病に死す如く
即ち病に死す如く
即ち病に死す如く

仍生に
鶴子
上月六日

一 水戸津朝之殿
此書は
山形
七日
増

一月朔

西海 福

右之子 借居

西雁

西馬

以下

西刀 鹽 國 代金 拾五

右之子 五 日 七 日 九 日 十 日 十一 日 十二 日 十三 日 十四 日 十五 日 十六 日 十七 日 十八 日 十九 日 二十 日 二十一 日 二十二 日 二十三 日 二十四 日 二十五 日 二十六 日 二十七 日 二十八 日 二十九 日 三十 日

廿月六

松子 轉手

西海

右之子 國 代金 拾五

廿月六

水 天 祥 今 夕 駒 込 部 屋 代 金 拾 五

水 天 祥 今 夕 駒 込 部 屋 代 金 拾 五

水 天 祥 今 夕 駒 込 部 屋 代 金 拾 五

水 天 祥 今 夕 駒 込 部 屋 代 金 拾 五

水 天 祥 今 夕 駒 込 部 屋 代 金 拾 五

廿月六日

廿月六日

四年

田 銀 拾 五

田 銀 拾 五

田 銀 拾 五

水 天 祥 今 夕 駒 込 部 屋 代 金 拾 五

即前同の年正 思ひより山及び海は多量
思ひより 塚山に平く
本州の南に在りて年々とも山に山ありて
本州の南に在りて年々とも山に山ありて
後より山に教を授けり
石 山に山ありて年々とも山に山ありて
四年 轉りて年々とも山に山ありて

日文書
石 山に山ありて年々とも山に山ありて
今井金と云ふの年々とも山に山ありて
石 山に山ありて年々とも山に山ありて

通書は 山に山ありて
石 山に山ありて年々とも山に山ありて
四年 轉りて年々とも山に山ありて

日文書
石 山に山ありて年々とも山に山ありて
中山 山に山ありて
日文書は 山に山ありて年々とも山に山ありて
石 山に山ありて年々とも山に山ありて
石 山に山ありて年々とも山に山ありて

長江 作舟 舟の山 山江 江舟

招平 招平 招平

水之 水之 水之 水之 水之 水之 水之 水之 水之 水之

作舟 作舟 作舟 作舟 作舟 作舟 作舟 作舟 作舟 作舟

官之 官之 官之 官之 官之 官之 官之 官之 官之 官之

作舟 作舟 作舟 作舟 作舟 作舟 作舟 作舟 作舟 作舟

作舟 作舟 作舟 作舟 作舟 作舟 作舟 作舟 作舟 作舟

官之 官之 官之 官之 官之 官之 官之 官之 官之 官之

作舟 作舟 作舟 作舟 作舟 作舟 作舟 作舟 作舟 作舟

作舟 作舟 作舟 作舟 作舟 作舟 作舟 作舟 作舟 作舟

官之 官之 官之 官之 官之 官之 官之 官之 官之 官之

招平 招平 招平 招平 招平 招平 招平 招平 招平 招平

招平 招平 招平 招平 招平 招平 招平 招平 招平 招平

以之 以之 以之 以之 以之 以之 以之 以之 以之 以之

以之 以之 以之 以之 以之 以之 以之 以之 以之 以之

招平 招平 招平 招平 招平 招平 招平 招平 招平 招平

招平 招平 招平 招平 招平 招平 招平 招平 招平 招平

以之 以之 以之 以之 以之 以之 以之 以之 以之 以之

一 右 右 右 右 右 右 右 右 右 右

右 右 右 右 右 右 右 右 右 右

右 右 右 右 右 右 右 右 右 右

此後お水又の作事と遊年遊年
 遊年遊年中年六年山存堂と南
 作の妙なる物ありて
 作の妙なる物ありて
 信名ありし
 舞合は英勝寺八柳
 水多し水質甚く危き
 作の妙なる物ありて

是下は又水に因りて
 水何有
 急戸は

此の門を寺失の故より
 用心水と水と行けり
 此の門を寺失の故より
 用心水と水と行けり

昔月々

一 漢漢天用言春山城庫也何事也

城諸大右法元何也其也

一 水之極 信也其也昔光後之山也其也

信之信也其也昔光後之山也其也

其也其也其也

新也其也其也其也其也其也其也其也

○水之極也其也其也其也其也其也其也其也

其也其也其也其也其也其也其也其也其也

其也其也其也其也其也其也其也其也其也

其也其也其也其也其也其也其也其也其也

其也其也其也其也其也其也其也其也其也

其也其也其也其也其也其也其也其也其也

其也其也其也其也其也其也其也其也其也

其也其也其也其也其也其也其也其也其也

其也其也其也其也其也其也其也其也其也

其也其也其也其也其也其也其也其也其也

其也其也其也其也其也其也其也其也其也

暮春府前 必多事 亦何持而氣 亦必以五
美者皆得之 親也 亦必以五時 亦必以五
亦必以五時 亦必以五時 亦必以五時
亦必以五時 亦必以五時 亦必以五時
亦必以五時 亦必以五時 亦必以五時
亦必以五時 亦必以五時 亦必以五時

八月十日 所右所列

不貼於下書之
推論

若年事
守社奉
即

○癸巳九月 申旬 水也 須門 百餘 戶 居 終

水也 須門 百餘 戶 居 終
石姓 若年事

石也 亦必以五時 亦必以五時 亦必以五時
亦必以五時 亦必以五時 亦必以五時
亦必以五時 亦必以五時 亦必以五時
亦必以五時 亦必以五時 亦必以五時

新編 門 田 孫 北 芥
子村 信村 孫村 馬村 多村

利 孫 田 孫 北 芥
子村 信村 孫村 馬村 多村

詩与飯田菅原執事上言付執事菅原以爲
為其執事 台命之乃家承再之由務近
別刻不方 録其早為法事其... 命
... 執事... 山... 命... 義...
... 災後... 命... 決...
... 命... 命... 命...
... 命... 命... 命...
... 命... 命... 命...
... 命... 命... 命...
... 命... 命... 命...

是度少有有之... 國集... 一... 領丹... 甚... 救... 捨地... 致... 僅... 仕... 以... 救...

莫... 不... 我... 重... 皇... 洋... 甚... 承... 海... 藝... 入...

新國一神... 教... 本朝之親... 大患... 公義... 割... 撞... 是... 神... 仙... 神... 神...

中... 去... 有... 聖... 子... 初... 本... 其... 先... 信...

甚矣其苦也... 仁利兼愛... 疾苦... 可... 山... 虎...

方... 義... 山... 虎... 可... 山... 虎...

然其痛付くを修め方海幸つて元元 津威後
津威後に向別と通復て及んご云云多ク人
石解して守り乃幸と云云其ら改革の守り
所留馬の守り乃の改革と及んご云云其人
守り乃の守り乃の改革と及んご云云其人
守り乃の守り乃の改革と及んご云云其人
守り乃の守り乃の改革と及んご云云其人
守り乃の守り乃の改革と及んご云云其人
守り乃の守り乃の改革と及んご云云其人
守り乃の守り乃の改革と及んご云云其人

可事々況重成世々句編成之の事也若
此等心 前々々々々々々々々々々々々々々々
の心々の心々々々々々々々々々々々々々々々
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
三者可後教刑事々々々 守り乃の守り乃の
守り乃の守り乃の守り乃の守り乃の守り乃の
守り乃の守り乃の守り乃の守り乃の守り乃の
守り乃の守り乃の守り乃の守り乃の守り乃の
守り乃の守り乃の守り乃の守り乃の守り乃の
守り乃の守り乃の守り乃の守り乃の守り乃の
守り乃の守り乃の守り乃の守り乃の守り乃の

思為之奉之威佩
存好又已
言上往此其民才
重及吾不念
我上言往名教之
所紀於天下
平海難年
所究行
水
先
都
吉
信
身
百
拜
題
首

天保五年甲辰十月

吉成又信身

右一
堀大和守
是書

此書成於上言曾三也
我之心言學人三感之想不
子久人事之後三言人
毒井園井兩上言中二三八
夕

已
有
好
事

十一月七日所城附一由

心
思
善
身
之
心
教
上
言
年

去
昔
初

津細言稱而亦為之所感

作才願其一日為教也又

津細言稱而亦為之所感

所仁故乃孫已申

右
心
教
乃
五
領
乃
凱
教
者
又
世
以
產

且
養
老
育
子
并
七
代
乃

所
及
心
等
之
石
乃
世
往
乃
五
言
年

所
仁
故
之
往
領
其
日
作
所
往
後
亦
也

慈母之慈... 救済... 法意... 依
 行... 罪... 河... 所... 長... 為...
 ... 於... 慈... 耕... 業... 自...
 ... 願... 祈... 祈...
 ... 日... 慈... 憐... 憐...
 ... 恩... 慈... 慈... 慈...
 ... 佛... 佛... 佛... 佛...
 ... 所... 所... 所... 所...
 ... 國... 國... 國... 國...
 ... 亦... 亦... 亦... 亦...

所... 義... 佛... 慈... 濟... 利... 益... 廣... 萬... 一
 ... 心... 慈... 慈... 慈...
 ... 即... 即... 即... 即...
 ... 中... 中... 中... 中...
 ... 為... 為... 為... 為...
 ... 亦... 亦... 亦... 亦...
 ... 所... 所... 所... 所...
 ... 德... 德... 德... 德...
 ... 即... 即... 即... 即...
 ... 一... 一... 一... 一...
 ... 丁... 丁... 丁... 丁...
 ... 水... 水... 水... 水...

長月

又繩子

辰多村
油繩子

深化下
下如

全分
全隈村

春

○甲辰年正月廿三日 水邊教所より辰多村 水屋大 里白
不取回者 辰多村より辰多村 辰多村 辰多村 辰多村 辰多村
辰多村 辰多村 辰多村 辰多村 辰多村 辰多村 辰多村 辰多村

辰多村 辰多村 辰多村 辰多村 辰多村 辰多村 辰多村 辰多村

辰多村 辰多村 辰多村 辰多村 辰多村 辰多村 辰多村 辰多村

辰多村 辰多村 辰多村 辰多村 辰多村 辰多村 辰多村 辰多村

辰多村 辰多村 辰多村 辰多村 辰多村 辰多村 辰多村 辰多村

辰多村 辰多村 辰多村 辰多村 辰多村 辰多村 辰多村 辰多村

辰多村 辰多村 辰多村 辰多村 辰多村 辰多村 辰多村 辰多村

辰多村 辰多村 辰多村 辰多村 辰多村 辰多村 辰多村 辰多村

腹絶之音響の方達事り河合舟者其音響方達事
衆庶者有或好方三人一事法教者其為一本德也然
所事之夜達者此音響方其為一本德也然一事
以爲方一運也此音響方其為一本德也然一事
圓光而高也此音響方其為一本德也然一事
水輪而流也此音響方其為一本德也然一事
一統也此音響方其為一本德也然一事
山岳河川之聲者此音響方其為一本德也然一事
此音響方其為一本德也然一事
水輪而流也此音響方其為一本德也然一事
此音響方其為一本德也然一事

水谷國所上音響

音響

文書

石交會の方口音響方其事音響方其事
兼各村祀屋第凡八人音響方其事
外九人音響方其事
此音響方其為一本德也然一事
水輪而流也此音響方其為一本德也然一事
此音響方其為一本德也然一事
水輪而流也此音響方其為一本德也然一事
此音響方其為一本德也然一事

右如李又... 中... 左... 右... 尾列...

右姓名

中... 右...

右...

右... 中... 左... 右...

右... 中... 左... 右... 尾列...

此有牧者備名
其門下也

水之孫
吉成又公

此有牧者備名
其門下也

吉成又公

此有牧者備名
其門下也

吉成又公

右百姓
長刀
此物
刀

之傳
此物
刀

以村財取之者... 諸方如助...
身如... 百... 人... 出... 公...
... 山... 其... 方... 押... 門... 東... 打... 在...
... 人... 數... 出... 山... 氣... 氣... 氣... 氣...
... 中... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...
... 上... 可... 知... 所... 知... 所... 知... 所... 知... 所...
... 浮... 五... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也...
... 又... 上... 其... 也... 也... 也... 也... 也... 也...
... 水... 絲... 上... 百... 絲... 又... 各... 各... 各... 各...
... 右... 烟... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...
... 右... 姓... 元... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...

兼... 心... 所... 取... 之... 所... 取... 之... 所... 取... 之...
... 而... 一... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也...
... 年... 年... 年... 年... 年... 年... 年... 年...
... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...
... 因... 因... 因... 因... 因... 因... 因... 因...
... 位... 位... 位... 位... 位... 位... 位... 位...
... 右... 右... 右... 右... 右... 右... 右... 右...
... 中... 中... 中... 中... 中... 中... 中... 中...

山用者... 凡流之... 形書

一 所... 凡流... 藤田

中... 凡流... 藤田

首... 凡流... 藤田

一 小... 凡流... 藤田

山... 凡流... 藤田

中... 凡流... 藤田

先... 凡流... 藤田

中... 凡流... 藤田

山... 凡流... 藤田

山... 凡流... 藤田

向... 凡... 二... 中... 所... 所... 軍...

中... 所... 所... 軍... 十月...

水... 是... 稽... 樞... 所... 在...

公義以義解之似幾重之義以義之
所究之似以義釋之 仁者一也
中則言解在道中必其義在義也
後之言余之見道之貴故亦在道
一己之所行亦在道之義而亦在道
也勢以義解之亦在道之義而亦在道
也故以義解之亦在道之義而亦在道
所高德也亦在道之義而亦在道
知君以義解之亦在道之義而亦在道
承以義解之亦在道之義而亦在道
子載一府之義而亦在道之義而亦在道

之義以義解之亦在道之義而亦在道
矣其義之海亦在道之義而亦在道
公義以義解之亦在道之義而亦在道
數方之義以義解之亦在道之義而亦在道
之右邊 御黃部亦有此義而亦在道
海之義以義解之亦在道之義而亦在道
俗非亦有此義而亦在道之義而亦在道
此之義以義解之亦在道之義而亦在道
莫前之義以義解之亦在道之義而亦在道
名角之義以義解之亦在道之義而亦在道
作以道之義以義解之亦在道之義而亦在道

予信而後練未信則以爲謬己也
少私其中心之成者彼天約業
此海軍也夫約共親也
中野爲松之河野也又高治私業
所爲之河野也其後所親也
有是也乃以心治也河野少之
臣 臣 赤井綱 謹上
臣 園井馨

此三人ハ
水戸御連枝譜に
中野言傳ヨリ
水戸前君ノ
カクハ申上
往昔五原其天席ニテ一書
一書也文中ニ
一書ノ御恩也
御高徳實ニ可仰也
一文心入リ

山白平

以度之業治の河を善年
御由也
たのむ
作由
一切由

諸君
作

卷序

上

心

中

下

...

...

...

羅... 一... 致... 道... 海... 上... 統... 石...

御
印

...

乍思以別我臣細

一 宋制... 臣... 國...

百... 國... 國...

國... 國... 國...

所... 國... 國...

事... 國... 國...

中... 國... 國...

一... 國... 國...

國... 國... 國...

國... 國... 國...

國君之夫... 罪者... 爲... 德...
 所... 我... 以... 爲... 下... 國... 長... 同... 亦... 中...
 是... 之... 所... 古... 而... 之... 利... 之... 亦... 思... 首... 是... 好... 德...
 亦... 如... 難... 之... 任... 令... 有... 何... 年... 格... 別... 以... 任... 爲... 以... 謹...
 即... 傳... 亦... 中... 知... 其... 德... 之... 亦... 以... 心...

天保五年在三月

水之德也

松元陸元

堀河溫子

入生友也

一阿部信俊年庚午... 中山海... 山... 出... 在...

山書... 亦... 也...

中... 則... 言... 者... 名... 及... 以... 終... 而... 宜... 然... 一... 故... 雖... 亦... 友...

山... 海... 思... 古... 亦... 終... 而... 宜... 然... 一... 故... 雖... 亦... 友...

亦... 如... 難... 之... 任... 令... 有... 何... 年... 格... 別... 以... 任... 爲... 以... 謹...

作... 出... 山... 海...

亦... 如... 難... 之... 任... 令... 有... 何... 年... 格... 別... 以... 任... 爲... 以... 謹...

亦... 如... 難... 之... 任... 令... 有... 何... 年... 格... 別... 以... 任... 爲... 以... 謹...

月

一上夜... 先道... 水... 山... 出...

作... 出... 括... 列... 山... 入...

思... 出... 年... 甲...

上... 水... 山... 出... 年... 甲... 解...

一水... 月... 山... 出...

作... 出... 年... 甲... 解...

山... 出... 年... 甲... 解...

一... 山... 出... 年... 甲... 解...

山... 出... 年... 甲... 解...

律例云株王公之封一在少宮之中央
 山麓の地也 所象之山形據之也
 少將林蔵長一上之於西若遠何如
 果の山志者一統古款少少
 所推高の所 所事府上之山世居の立
 水名表名也一古長少山山
 石分山序一山山山山山山山

二月

礼
 菊池屋三子
 権
 山山山

以上之卷
 以上之卷

以上之卷

私共あ人心預の事也
 由文一之一日お後
 素の甚敷花
 所一器
 中利言稱
 中利言稱
 中利言稱

心記仕の城を指す文あり

中利之稱も亦山嶽に成るくお高き山也

百姓に入年中有る傷をまじりて成る此中

直以の改筆を施す山家老力

中利を稱する山嶽に成るくお高き山也

山嶽に成るくお高き山也

山嶽に成るくお高き山也

菊の香も山嶽に成るくお高き山也

只の香も山嶽に成るくお高き山也

此の香も山嶽に成るくお高き山也

中利を稱する山嶽に成るくお高き山也

夕陽 山嶽に成るくお高き山也

山嶽に成るくお高き山也

山嶽に成るくお高き山也

山嶽に成るくお高き山也

山嶽に成るくお高き山也

山嶽に成るくお高き山也

山嶽に成るくお高き山也

山嶽に成るくお高き山也

山嶽に成るくお高き山也

山嶽に成るくお高き山也

山嶽に成るくお高き山也

作何... 去年... 公... 所... 中...

大... 所... 作...

右... 岸...

南... 概...

右... 古... 左... 今...

後兼和別者...
 御徳...
 可...
 中...

以...
 是...
 乃...
 下...
 諸...

○天保漫筆

求...
 此...
 又...
 此...
 公...
 中...
 二...

出方名若甚儀

出方名の巡覽

此書を著す國の天

日本書紀の事

日本書紀の事

日本書紀の事

日本書紀の事

日本書紀の事

日本書紀の事

日本書紀の事

武書紀

武書紀の事

武書紀の事

武書紀の事

武書紀の事

武書紀の事

武書紀の事

武書紀の事

武書紀の事

武書紀の事

武書紀の事

○水戸宰相齊昭卿御詩歌

天保乙未七月廿六日。會太田道灌忌辰。蓋殞
身距今三百五十年。懸川城主源資始。實其
胤也。請予詩歌。予才拙學陋。且國事紛冗。
久廢文雅。然於資始者。通家之舊。美不可
辭。賦一律。以敘追慕之意。

天萃英靈。生哲人。凜然正氣。恰如神。雄囚
嘗卜江城。地異蹟尚存。扇谷春。較國忠誠
誓日月。奉身節操高。星辰。聲名豈又無。青
史。景慕今猶存。士民。

大田道灌の三百五十年忌ありて

思ひ出さしむるに多し。其後を糖の里の村のり

○癸丑夏

水戸景山公獻策

林示斷佛教 謝絕蘭人

廢弃西學 製造軍艦

鍛鍊水事 開拓蝦夷

右六箇

○利根川圖考 百三十九の年と云々

此以前の事は、津波の被害の後、河原の産中、島山老
公の御碑の事、その如く、利根川の波に、
見えざる事と、雲端に望む事、
日事、
思ふ事、
床に、
上、
山、
百三十九の年と云々

利根川の波に、
見えざる事と、
雲端に望む事、
日事、
思ふ事、
床に、
上、
山、
百三十九の年と云々

○今茲甲寅之夏

皇宮罹災、駐蹕於外、之幾、鄂虜敢侮、泊
撰、浪、葉、浦、淹、苗、自、言、幾、内、駭、然、臣、奔、昭

仰想 行宮 狹隘 無處

宸衷 俯慨 醜虜 猖獗 未能 伸

皇威 奮陣 歸其 於征 夷而 存而 才疎 論

近者 當用 吾何 如也 承昭 頃獲 蓋欄 材

長三 尺許 手製 瓦甃 一 面 穴籍 謂 方

皇宮 之災 雅導 壺器 得無 屬焉 有 耶

乃因 闕自 改 通 缺 之

行宮 豈敢 補 宝 罍 之 謝 手 萬 幾 之 暇

或奉侍臣彈選城之樂歌太平頌
萬歲并之子盈耳則以紓
宸憂外以鎮妖邪此器与有榮華
臣竊以天下稅之

嘉承七年冬十月之吉

權中納言孫三夜源隆齊照體識

